



発行日：2014.2 編集・発行：川崎幸病院 防災対策チーム

1月度チーム活動報告

テーマ：病棟での火災想定訓練

日時：1月18日(土) 13:00～15:30

参加者：39名

(看護師18名、コメディカル9名、事務12名)

地域の災害医療の 中心となる 病院を目指して

今回は、皆様からのご要望が多かった、“病棟での火災”を想定した搬送訓練。

当院の建物構造・防火設備を再確認し、避難経路を各自イメージしていただきながら、病棟から患者12名を安全に搬送する訓練を行いました。

川崎幸病院の防火設備について



築紫さんから、当院の建物の構造や防火設備とその注意事項について講義をしていただきました。

避難経路を計画するためには、日頃から防火設備について認識を深めておくことが大切です。

防火区画、消防隊の消火活動スペース(1、2号機エレベータホール)、などについて解説していただきました。

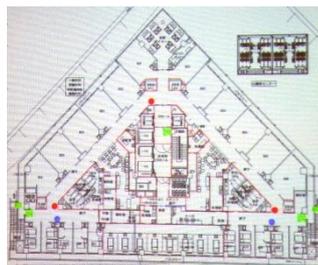
防火区画とは？

火災を一定の範囲内に止めて、急激に燃え広がることを防ぐために、耐火構造で作られた壁・床・防火扉などによって、建築物をいくつかに分けたものです。

当院は全フロアが2つの防火区画に分けられています。

ですので、一方の防火区画内で火災が発生した時には、まずは、もう一方の防火区画に避難・患者搬送をします。

グループワーク 避難・搬送経路の検討



フロアごとにグループに分かれ、各フロアのフロア図に防火扉、防火区画などを蛍光ペンで書き込みながら、火災発生時の避難・搬送経路を検討していただきました。

搬送方法についての実演

EMT科からは搬送方法の実演です。

1人での搬送法である“背負い搬送”、2人での搬送法である“二人従手搬送”、また布担架や毛布などを使用した搬送方法を実演していただきました。

1人でも多くの患者さんを安全に搬送するためには、“何人で搬送するか？”“どのように搬送するか？”を患者さんの状態、火災の状況から速やかに判断することが求められます。

各搬送方法をしっかりと身につけておくことが大切です。



背負い搬送



二人従手搬送



布担架での搬送

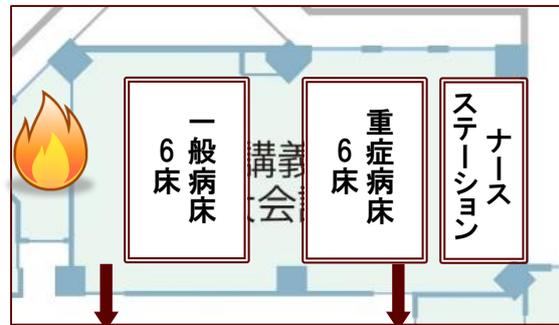


毛布を使った引きずり搬送(緊急時)

搬送訓練

訓練では、講義室を模擬病棟としました(右図参照)。重症病床6床、一般病床6床の計12名の患者搬送を行います。

病棟(看護師・医師)チーム、搬送チーム(他部署からの応援人員など)、患者役チームの3チームに分け、今回の訓練ではまず、消火活動スペースである非常用エレベータホールに水平搬送し、5階から3階までの搬送訓練を行いました。



病棟チーム

リーダーナース、病室担当ナースを中心に、点滴などの継続治療の対応について医師に判断を仰ぐなど、患者一人ひとりの状態を考慮し、搬送の指示を出していきます。

搬送チーム



病棟チームからの応援要請・指示に従い、安全に患者搬送を行います。背負い搬送、二人徒手搬送、布担架での搬送など、患者の状態に合わせて搬送します。

患者チーム



模擬患者役の12名の職員さんには、点滴ラインやバルーンをつけるなど、病態に応じた処置を施していきます。本番さながらの訓練です。

搬送訓練の流れ



患者の状態から判断し、車椅子、独歩介助など適切な手段で速やかにエレベータホールに搬送します。



リーダーナース、病室担当ナースが中心となって、搬送指示を出していきます。医師の指示を受け、他部署への応援要請など、判断・行動する項目は多岐に渡ります。



医師役(吉村科長)に判断を仰ぎ、点滴ラインなどの処置をし、安全に患者を搬送していきます。



消防隊の消火活動スペースに水平搬送。特に重篤な患者はこのスペースにて消防隊の救助を待ちます。



患者の状態に合わせた搬送方法で安全な3階フロアに搬送していきます。独歩介助可能な患者は、非常階段からも避難しました。何人で、どの搬送法で搬送するか? 迅速な判断が求められます。

訓練を振り返って

訓練であるにもかかわらず頭が真っ白になってしまい、うまく指示出しや行動ができなかったという声が多かったです。また、夜間はどうか、検査・リハ中の患者はどうかなどの課題もあがりました。

訓練において、課題を発見していくことは大切なことです。あがった課題を今後の活動に活かしていきたいと思えます。